

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of: **Hideji KAWASAKI, et al.**

Serial No.: **Not Yet Assigned**

Filed: **November 9, 2001**

For: **FOLDABLE PORTABLE COMMUNICATION TERMINAL DEVICE**

CLAIM FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

November 9, 2001

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior foreign application is hereby requested for the above-identified application, and the priority provided in 35 U.S.C. 119 is hereby claimed:

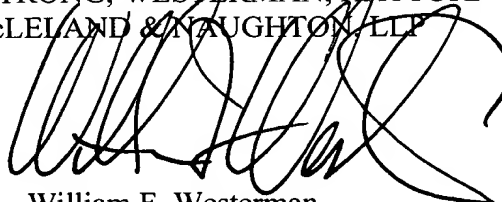
Japanese Appln. No. 2000-347094, filed November 14, 2000

In support of this claim, the requisite certified copy of said original foreign application is filed herewith.

It is requested that the file of this application be marked to indicate that the applicants have complied with the requirements of 35 U.S.C. 119 and that the Patent and Trademark Office kindly acknowledge receipt of said certified copy.

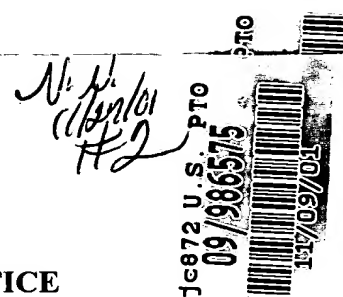
In the event that any fees are due in connection with this paper, please charge our Deposit Account No. 01-2340.

Respectfully submitted,
ARMSTRONG, WESTERMAN, HATTORI
MCLELAND & NAUGHTON, LLP



William F. Westerman
Reg. No. 29,988

Atty. Docket No.: 011480
Suite 1000, 1725 K Street, N.W.
Washington, D.C. 20006
Tel: (202) 659-2930
Fax: (202) 887-0357
WFW/ll



【書類名】 特許願

【整理番号】 JJC1000101

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04Q 7/32

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会
社内

【氏名】 川崎 秀次

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会
社内

【氏名】 賀集 啓臣

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会
社内

【氏名】 大塚 修司

【特許出願人】

【識別番号】 000001889

【氏名又は名称】 三洋電機株式会社

【代理人】

【識別番号】 100100114

【弁理士】

【氏名又は名称】 西岡 伸泰

【電話番号】 06-6940-1766

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 037811

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 折り畳み式携帯通信端末装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 本体ケースに蓋体ケースを開閉可能に連結してなるケーシングを具えた折り畳み式携帯通信端末装置において、

装置本体に電力を供給する電源回路と、

電源回路から装置本体に対する電力の供給をオン／オフするオン／オフ回路と

ケーシングを閉じた状態で押下操作が可能な位置に配備された 1 或いは複数の操作キーと、

前記 1 或いは複数の操作キーが一定時間以上に亘って押下されたとき、オン／オフ回路をオフとする電力供給制御回路

とを具えていることを特徴とする折り畳み式携帯通信端末装置。

【請求項 2】 前記ケーシングを閉じた状態で押下操作が可能な位置に配備された操作キーは複数であって、前記電力供給制御回路は、前記複数の操作キーが一定時間以上に亘って同時に押下されたときにオン／オフ回路をオフとする請求項 1 に記載の折り畳み式携帯通信端末装置。

【請求項 3】 前記複数の操作キーは夫々、ケーシングを開いた状態と閉じた状態とで異なる機能に切り換えられる請求項 2 に記載の折り畳み式携帯通信端末装置。

【請求項 4】 前記複数の操作キーは 2 つの操作キーから構成され、ケーシングには、ケーシングを閉じた状態で外部へ露出するディスプレイが配備され、前記 2 つの操作キーは夫々、ケーシングが開いた状態では受話音の音量を調整するためのボリュームアップキー及びボリュームダウンキーとしての機能を発揮する一方、ケーシングが閉じた状態ではディスプレイの表示をスクロールさせるためのスクロールアップキー及びスクロールダウンキーとしての機能を発揮する請求項 3 に記載の折り畳み式携帯通信端末装置。

【請求項 5】 本体ケースに蓋体ケースを開閉可能に連結してなるケーシングを具えた折り畳み式携帯通信端末装置において、ケーシングには、ケーシング

を開いた状態と閉じた状態で操作が可能な位置に 1 或いは複数の操作キーが配備され、これら 1 或いは複数の操作キーは夫々、ケーシングを開いた状態と閉じた状態とで異なる機能に切り換えられることを特徴とする折り畳み式携帯通信端末装置。

【請求項 6】 ケーシングには、ケーシングを閉じた状態で外部へ露出するディスプレイが配備され、前記複数の操作キーの内、2 つの操作キーは夫々、ケーシングが開いた状態では受話音の音量を調整するためのボリュームアップキー及びボリュームダウンキーとしての機能を発揮する一方、ケーシングが閉じた状態ではディスプレイの表示をスクロールさせるためのスクロールアップキー及びスクロールダウンキーとしての機能を発揮する請求項 5 に記載の折り畳み式携帯通信端末装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、本体ケースに蓋体ケースを開閉可能に連結した折り畳み式携帯電話機の如く、折り畳んで携帯することが可能な折り畳み式携帯通信端末装置に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

折り畳み式携帯電話機においては、携帯時には本体ケースと蓋体ケースを折り畳むことによって小型化し、送受信時には、両ケースを開くことによって、本体ケースの内面に設けられたキー操作面と送話部を露出させると共に、蓋体ケースの内面に設けられた画像表示面と受話部を露出させて、通話を可能とすることが出来る。

この様な折り畳み式携帯電話機は、携帯に便利であるばかりでなく、鞆等に入れて携帯する場合において、操作キーは蓋体ケースによって覆われているため、意思に反してキーが押下される虞はなく、安全である。

【0 0 0 3】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来の折り畳み式携帯電話機においては、装置本体の電源をオン／オフするための操作キーが本体ケースの内面に設けられているため、例えば会議中の着信を回避するために会議に出席する前に装置本体の電源をオフに切り換えんとする際には、一旦、蓋体ケースを開いて、前記操作キーを操作した後、再び蓋体ケースを閉じる操作を行なわねばならず、蓋体ケースの開閉操作が煩わしい問題があった。

本発明の目的は、本体ケースと蓋体ケースを折り畳んだ状態で装置本体の電源をオフに切り換えることが出来る折り畳み式携帯通信端末装置を提供することである。

【 0 0 0 4 】

【課題を解決する為の手段】

本発明に係る折り畳み式携帯通信端末装置は、本体ケースに蓋体ケースを開閉可能に連結してなるケーシングを具え、特徴的構成において、

装置本体に電力を供給する電源回路と、

電源回路から装置本体に対する電力の供給をオン／オフするオン／オフ回路と

ケーシングを閉じた状態で押下操作が可能な位置に配備された 1 或いは複数の操作キーと、

前記 1 或いは複数の操作キーが一定時間以上に亘って押下されたとき、オン／オフ回路をオフとする電力供給制御回路

とを具えている。

【 0 0 0 5 】

本発明に係る折り畳み式携帯通信端末装置においては、ケーシングに配備された 1 或いは複数の操作キーを一定時間以上、押下し続けると、オン／オフ回路がオフとなって電源回路から装置本体に対する電力の供給が停止され、装置本体の電源がオフとなる。ここで、前記 1 或いは複数の操作キーは、ケーシングを閉じた状態で押下操作が可能な位置に配置されているため、装置本体の電源をオフに切り換えんとする際、蓋体ケースの開閉操作は不要である。

この様に、本発明に係る折り畳み式携帯通信端末装置によれば、本体ケースと

蓋体ケースを折り畳んだ状態で装置本体の電源をオフに切り換えることが出来る。

又、本発明に係る折り畳み式携帯通信端末装置においては、前記 1 或いは複数の操作キーが一定時間よりも短い時間だけ押下されたとしても装置本体の電源はオフに切り替わらず、一定時間以上に亘って押下され続けたときに限って装置本体の電源はオフに切り替わる。従って、例えば鞆に入れて携帯する場合において、鞆内の物品が前記 1 或いは複数の操作キーに当って、ユーザの意思に反して装置本体の電源がオフに切り替わることを防止することが出来る。

【 0 0 0 6 】

具体的には、前記ケーシングを閉じた状態で押下操作が可能な位置に配備された操作キーは複数であって、前記電力供給制御回路は、前記複数の操作キーが一定時間以上に亘って同時に押下されたときにオン／オフ回路をオフとする。

【 0 0 0 7 】

上述の如く鞆に入れて携帯する場合において、鞆内の物品が前記複数の操作キーに同時に当って、これら複数の操作キーが同時に押下され、然も該押下状態が一定時間以上に亘って継続するという事態の可能性は極めて低い。従って、上記具体的構成によれば、意思に反して装置本体の電源がオフに切り替わることをより確実に防止することが出来る。

【 0 0 0 8 】

又、具体的には、前記複数の操作キーは夫々、ケーシングを開いた状態と閉じた状態とで異なる機能に切り換えられる。

【 0 0 0 9 】

近年の情報技術の発達によって、携帯通信端末装置に持たせることの出来る機能が増大しているが、多くの機能を有する携帯通信端末装置において、仮に機能ごとに操作キーを形成した場合、装置本体が大型となる。

上記具体的構成によれば、前記 1 或いは複数の操作キーに夫々、ケーシングを開いた状態と閉じた状態で異なる機能を持たせて、装置本体に形成すべき操作キーの数を減少させることにより、装置本体の小型化を図ることが出来る。

【 0 0 1 0 】

更に具体的には、前記複数の操作キーは2つの操作キーから構成され、ケーシングには、ケーシングを閉じた状態で外部へ露出するディスプレイが配備され、前記2つの操作キーは夫々、ケーシングが開いた状態では受話音の音量を調整するためのボリュームアップキー及びボリュームダウンキーとしての機能を発揮する一方、ケーシングが閉じた状態ではディスプレイの表示をスクロールさせるためのスクロールアップキー及びスクロールダウンキーとしての機能を発揮する。

【0011】

該具体的構成を有する折り畳み式携帯通信端末装置においては、ケーシングを開いた状態で通話が可能であって、この状態では、上記2つの操作キーは、受話音の音量を調整するためのボリュームアップキー及びボリュームダウンキーとしての機能を発揮する。

又、ケーシングを閉じた状態でディスプレイの表示を見ることが可能であって、この状態では、上記2つの操作キーは、ディスプレイの表示をスクロールさせるためのスクロールアップキー及びスクロールダウンキーとしての機能を発揮する。

【0012】

【発明の効果】

本発明に係る折り畳み式携帯通信端末装置によれば、本体ケースと蓋体ケースを折り畳んだ状態で装置本体の電源をオフに切り換えることが出来る。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態につき、図面に沿って具体的に説明する。

本発明に係る折り畳み式携帯電話機は、図1及び図2に示す如く扁平な本体ケース(1)と蓋体ケース(2)を具え、本体ケース(1)の上端部と蓋体ケース(2)の下端部とがヒンジ機構(6)を介して互いに連結されて、図1の如く蓋体ケース(2)を開いた状態と、図2の如く蓋体ケース(2)を閉じた状態の間で、開閉操作が可能となっている。この様にして、折り畳みが可能なケーシングが構成されている。

又、本体ケース(1)の背部には、伸縮式アンテナ(3)が配備されている。

【 0 0 1 4 】

本体ケース(1)の内面には、オフフックキー(11a)、オンフックキー(11b)、テンキー(11c)などの複数の操作キーからなる内面側操作キー群(11)が配備されると共に、該内面の下端部には、マイクロホンを内蔵した送話部(4)が設けられている。

又、本体ケース(1)の内面には、蓋体ケース(2)の開閉を検出するための開閉検出スイッチ(17)が配備されている。該開閉検出スイッチ(17)は、蓋体ケース(2)を閉じることによってオンとなり、蓋体ケース(2)を開くことによってオフとなる。

【 0 0 1 5 】

又、上記携帯電話機は、伝言キー(12)、アップキー(13)及びダウンキー(14)を具えており、これらのキー(12)(13)(14)は、蓋体ケース(2)を閉じた状態でも外部へ露出する様に、本体ケース(1)の側部に配置されている。従って、図1の如く蓋体ケース(2)を開いた状態で押下操作が可能であると共に、図2の如く蓋体ケース(2)を閉じた状態でも押下操作が可能である。これらの伝言キー(12)、アップキー(13)及びダウンキー(14)は、後述の如く、蓋体ケース(2)を開いた状態と閉じた状態とで異なる機能を発揮する。

【 0 0 1 6 】

一方、蓋体ケース(2)の内面には、主ディスプレイ(21)が配備されると共に、該内面の上端部には、スピーカを内蔵した受話部(5)が設けられている。主ディスプレイ(21)には、従来と同様に、日時や各種のメニュー、受信メールの内容、着信時の相手の電話番号、氏名、発信時の相手の電話番号等が表示される。

又、蓋体ケース(2)の背面には、図2(b)の如く、補助ディスプレイ(22)が配備されており、補助ディスプレイ(22)には、着信件数や受信メールの件数、着信時の相手の電話番号、受信メールの相手の氏名、受信メールの内容等が表示される。

【 0 0 1 7 】

図3は、上記折り畳み式携帯電話機の電氣的な構成を表わしている。

上記折り畳み式携帯電話機においては、図示の如く、伸縮式アンテナ(3)に電

話回路(15)が接続されており、該電話回路(15)によって、他の携帯電話機との間や加入者電話回線に接続された一般電話機との間の通話やデータ通信のための信号処理が行なわれる。

【 0 0 1 8 】

電話回路(15)の動作は、マイクロコンピュータからなる制御回路(16)によって制御されており、該制御回路(16)に、マイクロホン(41)及びスピーカ(51)が接続され、送話音の入力及び受話音の出力が可能となっている。

【 0 0 1 9 】

又、制御回路(16)には、上述の主ディスプレイ(21)、補助ディスプレイ(22)、内面側操作キー群(11)、伝言キー(12)、アップキー(13)及びダウンキー(14)が接続されると共に、主ディスプレイ(21)及び補助ディスプレイ(22)の表示面を照明するためのバックライト(18)が接続されている。

又、制御回路(16)には、上記開閉検出スイッチ(17)が接続されている。

【 0 0 2 0 】

更に、上記折り畳み式携帯電話機は、電源として二次電池(図示省略)を内蔵しており、制御回路(16)には、二次電池から電話回路(15)、マイクロホン(41)、スピーカ(51)、主ディスプレイ(21)、補助ディスプレイ(22)及びバックライト(18)に対する電力の供給をオン／オフする電力供給スイッチ(19)が接続されている。該スイッチ(19)は、制御回路(16)によってオン／オフ制御されており、スイッチ(19)がオンになると、二次電池から電話回路(15)、マイクロホン(41)、スピーカ(51)、主ディスプレイ(21)、補助ディスプレイ(22)及びバックライト(18)に対する電力の供給が開始されるのに対し、スイッチ(19)がオフになると、二次電池から電話回路(15)、マイクロホン(41)、スピーカ(51)、主ディスプレイ(21)、補助ディスプレイ(22)及びバックライト(18)に対する電力の供給が停止される。この様にして、装置本体の電源のオン／オフ状態が切り替わる。

【 0 0 2 1 】

上記折り畳み式携帯電話機においては、装置本体の電源のオフ時に、蓋体ケース(2)が閉じられている状態で、アップキー(13)及びダウンキー(14)が一定時間以上に亘って同時に押下されると、電源がオンとなる。又、従来と同様に、蓋体

ケース(2)を開いた状態でオンフックキー(11b)を一定時間以上に亘って押下し続けることによって、電源はオンとなる。

その後、蓋体ケース(2)を開いた状態で、オフフックキー(11a)やテンキー(11c)を操作することによって、送話部(4)と受話部(5)を用いた通話が可能となる。

【 0 0 2 2 】

上述の伝言キー(12)は、蓋体ケース(2)が開かれている状態では、後述の機能を発揮する。

着信の待受け中に一定時間以上に亘って押下されると、着信があった場合に例えば“ただいま電話に出ることが出来ません”との伝言で応答する伝言モードが設定され、或いは解除される。

又、通話中に一定時間以上に亘って押下されると、通話内容の録音が始まり、その後、再び一定時間以上、押下されると、録音が停止される。

又、着信中に一定時間以上に亘って押下されると、その時点で、例えば“ただいま電話に出ることが出来ません”との伝言による応答動作が実行される。

又、前記一定時間より短い時間だけ押下されると、上記伝言の内容等、伝言モードに関する情報が主ディスプレイ(21)に表示される。

【 0 0 2 3 】

これに対し、蓋体ケース(2)が閉じられている状態では、伝言キー(12)は、後述の機能を発揮する。

着信の待受け中に一定時間以上に亘って押下された場合、通話中に一定時間以上に亘って押下された場合、及び着信中に一定時間以上に亘って押下された場合、伝言キー(12)は、蓋体ケース(2)が開かれている状態と同一の機能を発揮する。即ち、着信の待受け中に一定時間以上に亘って押下されると、伝言モードが設定／解除され、通話中に一定時間以上に亘って押下されると、通話内容の録音が始まり／停止され、着信中に一定時間以上に亘って押下されると、その時点で伝言による応答動作が実行される。

又、前記一定時間より短い時間だけ押下されると、バックライト(18)が点灯して、補助ディスプレイ(22)が照明される。

【 0 0 2 4 】

上述のアップキー(13)及びダウンキー(14)は、蓋体ケース(2)が開かれている状態では、後述の機能を発揮する。

着信の待受け中及び通話中に押下されると、受話音の音量が増大し、或いは減小する。

又、各種のメニューや受信メールの内容が主ディスプレイ(21)が表示されている状態で押下されると、それらの表示がスクロールアップされ、或いはスクロールダウンされる。

又、着信中に押下されると、着信音の音量が増大し、或いは減小する。

【 0 0 2 5 】

これに対し、蓋体ケース(2)が閉じられている状態では、アップキー(13)及びダウンキー(14)は、後述の機能を発揮する。

着信の待受け中に押下されると、着信件数や受信メールの件数等の各種の情報が順次、補助ディスプレイ(22)に切換え表示される。又、補助ディスプレイ(22)に受信メールの内容が表示されている状態で押下されると、該表示がスクロールアップされ、或いはスクロールダウンされる。

又、着信中に押下された場合は、蓋体ケース(2)が開かれている状態と同様に、着信音の音量が増大し、或いは減小する。

【 0 0 2 6 】

そして、上述の如く装置本体の電源がオンに設定されており、蓋体ケース(2)が閉じられている状態で、アップキー(13)及びダウンキー(14)が一定時間以上に亘って同時に押下されると、電源がオフとなる。又、従来と同様に、蓋体ケース(2)を開いた状態でオンフックキー(11b)を一定時間以上に亘って押下し続けることによって、電源はオフとなる。

【 0 0 2 7 】

図4は、上記制御回路(16)が実行する装置本体の電源オン／オフ切換え手続きを表わしている。尚、上記折り畳み式携帯電話機においては、ユーザにより初めて電源が投入されたときに、各ポートの設定等、必要な初期設定が行なわれる。

図示の如く、先ずステップS1にて、開閉検出スイッチ(17)がオンであるか否

かを判断する。

蓋体ケース(2)が閉じられている状態ではステップS1にてイエスと判断され、ステップS2に移行して、電源がオンであるか否かを判断する。ここで、イエスと判断された場合は、ステップS3に移行して、アップキー(13)及びダウンキー(14)が一定時間以上に亘って同時に押下されたか否かを判断し、イエスと判断された場合は、ステップS4に移行して電源をオフに切り換えた後、ステップS1に戻る一方、ノーと判断された場合は、ステップS4を迂回してステップS1に戻る。

ステップS2にてノーと判断された場合は、ステップS5に移行して、アップキー(13)及びダウンキー(14)が一定時間以上に亘って同時に押下されたか否かを判断し、イエスと判断された場合は、ステップS6に移行して電源をオンに切り換えた後、ステップS1に戻る一方、ノーと判断された場合は、ステップS6を迂回してステップS1に戻る。

【0028】

蓋体ケース(2)が開かれている状態ではステップS1にてノーと判断され、ステップS7に移行して、電源がオフであるか否かを判断する。ここで、ノーと判断された場合は、ステップS8に移行して、オンフックキー(11b)が一定時間以上に亘って押下されたか否かを判断し、ノーと判断された場合は、ステップS1に戻る一方、イエスと判断された場合は、ステップS4に移行して電源をオフに切り換えた後、ステップS1に戻る。

ステップS7にてイエスと判断された場合は、ステップS9に移行して、オンフックキー(11b)が一定時間以上に亘って押下されたか否かを判断し、ノーと判断された場合は、ステップS1に戻る一方、イエスと判断された場合は、ステップS6に移行して電源をオンに切り換えた後、ステップS1に戻る。

【0029】

本発明に係る折り畳み式携帯電話機においては、上述の如く、本体ケース(1)と蓋体ケース(2)を折り畳んだ状態で、本体ケース(1)の側部に配備されたアップキー(13)及びダウンキー(14)を一定時間以上に亘って同時に押下し続けることによって装置本体の電源のオン/オフ状態を切り換えることが出来る。従って、

装置本体の電源のオン／オフ状態を切り換える際に蓋体ケース(2)を開閉する必要はなく、その際の操作が簡易である。

又、上記折り畳み式携帯電話機においては、アップキー(13)及びダウンキー(14)が同時に、且つ一定時間以上に亘って同時に押下されたときに電源のオン／オフが切り替わる。ここで、例えば鞆に入れて携帯する場合において、鞆内の物品がアップキー(13)及びダウンキー(14)に同時に当って、これらのキー(13)(14)が同時に押下され、然も該押下状態が一定時間以上に亘って継続するという事態の可能性は極めて低い。従って、ユーザの意思に反して電源のオン／オフ状態が切り替わることは殆どない。

更に、上記折り畳み式携帯電話機においては、伝言キー(12)、アップキー(13)及びダウンキー(14)は、蓋体ケース(2)が開いた状態と閉じた状態とで異なる機能を発揮する。従って、機能ごとに操作キーを形成する場合に比べて操作キーの数が減少して、装置本体が小型となる。

【 0 0 3 0 】

尚、本発明の各部構成は上記実施の形態に限らず、特許請求の範囲に記載の技術的範囲内で種々の変形が可能である。

例えば、上記実施の形態においては、アップキー(13)及びダウンキー(14)が一定時間以上に亘って同時に押下されたときに電源のオン／オフ状態を切り換える構成を採用しているが、これに限らず、伝言キー(12)、アップキー(13)及びダウンキー(14)の内、何れか1つのキーが一定時間以上に亘って押下されたときに電源のオン／オフ状態を切り換える構成や、全てのキー(12)(13)(14)が一定時間以上に亘って押下されたときに電源のオン／オフ状態を切り換える構成を採用することも可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係る折り畳み式携帯電話機の開いた状態を示す斜視図である。

【図 2】

上記折り畳み式携帯電話機の閉じた状態を示す斜視図である。

【図 3】

上記折り畳み式携帯電話機の電氣的な構成を表わすブロック図である。

【図 4】

上記折り畳み式携帯電話機における制御動作の一部を表わすフローチャートである。

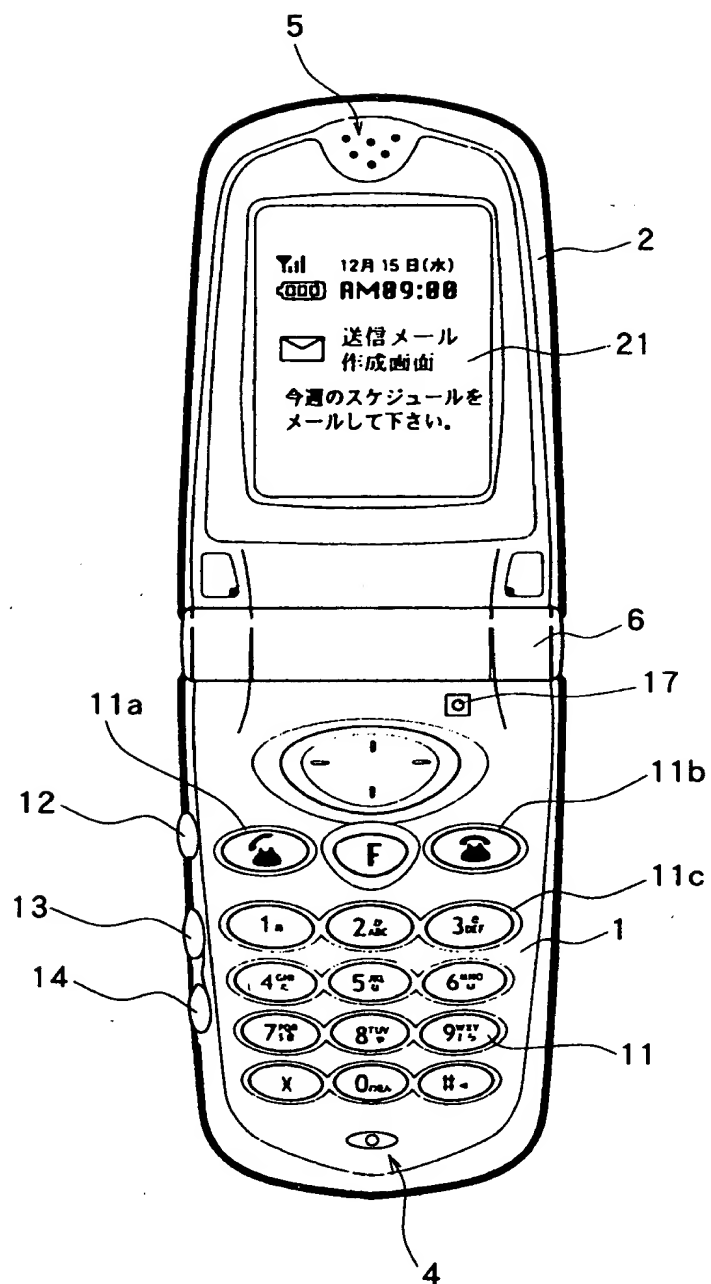
【符号の説明】

- (1) 本体ケース
- (11) 内面側操作キー群
- (12) 伝言キー
- (13) アップキー
- (14) ダウンキー
- (19) 電力供給スイッチ
- (2) 蓋体ケース
- (21) 主ディスプレイ
- (22) 補助ディスプレイ
- (4) 送話部
- (41) マイクロホン
- (5) 受話部
- (51) スピーカ

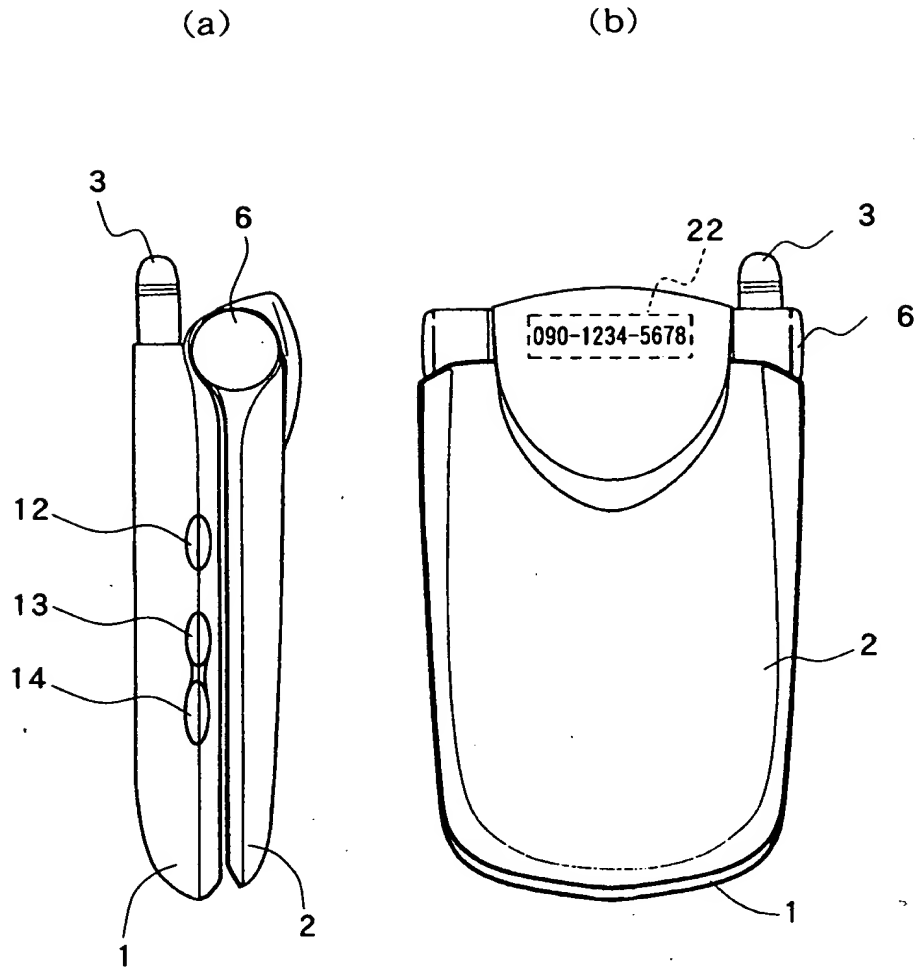
【書類名】

図面

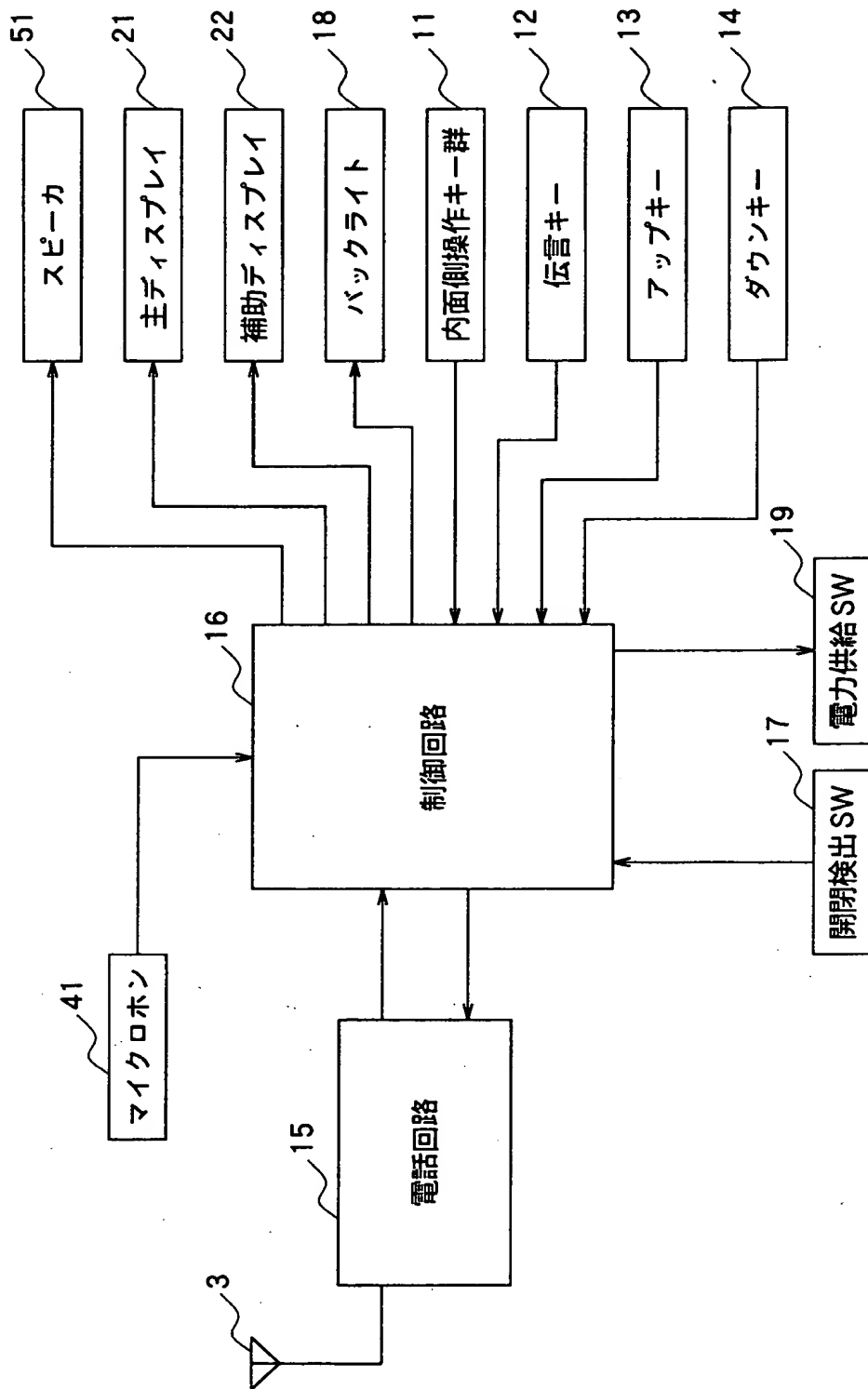
【図 1】



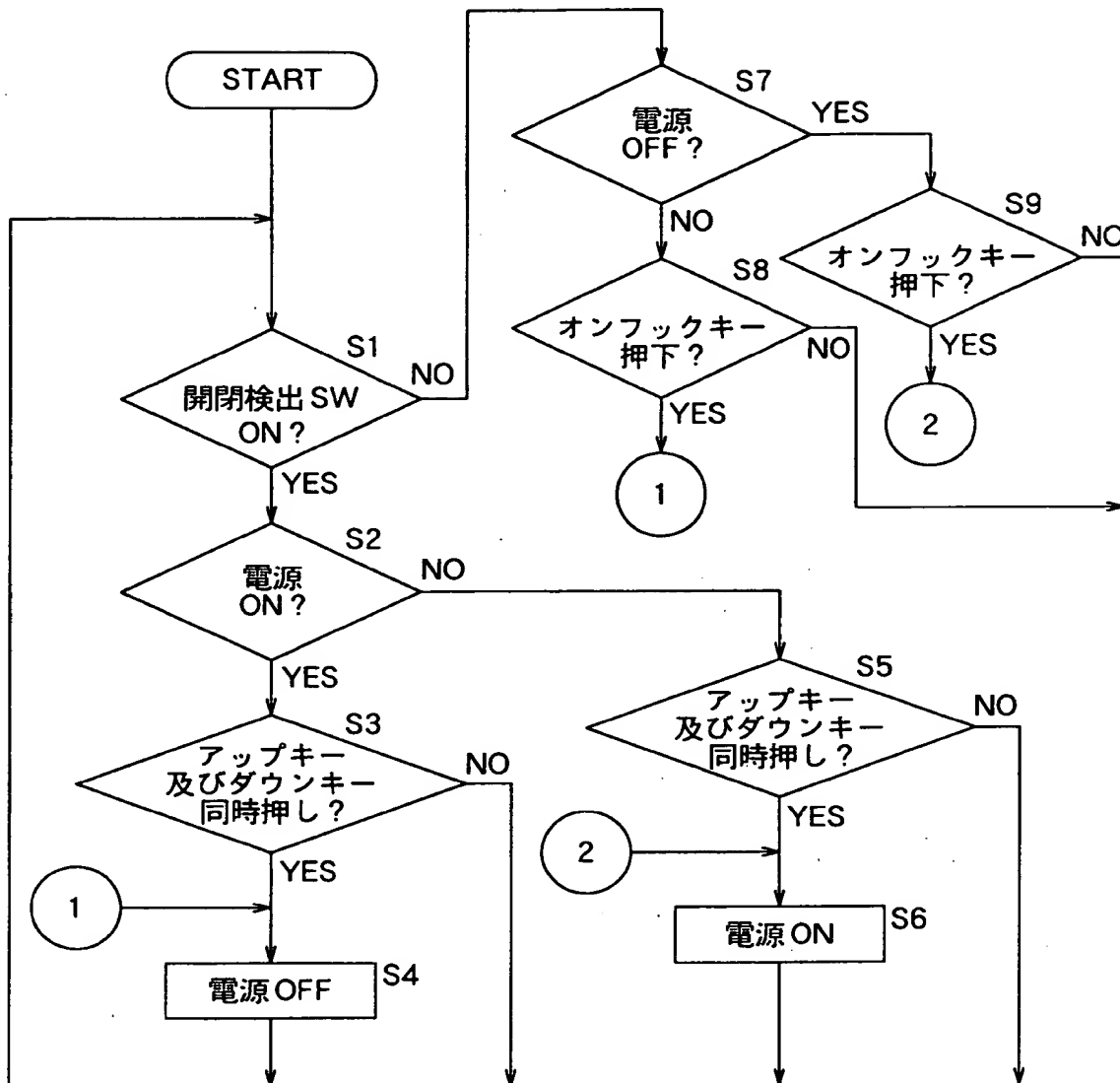
【図 2】



【図3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本体ケースと蓋体ケースを折り畳んだ状態で装置本体の電源をオフに切り換えることが出来る折り畳み式携帯通信端末装置を提供する。

【解決手段】 本発明に係る折り畳み式携帯通信端末装置においては、本体ケースに蓋体ケースが開閉可能に連結され、本体ケースの一方の側部には、アップキー13及びダウンキー14が配備されている。該携帯通信端末装置は、二次電池、電力供給スイッチ19及び制御回路16を内蔵しており、制御回路16は、アップキー13及びダウンキー14が一定時間以上に亘って同時に押下されたとき、電力供給スイッチ19のオン／オフ状態を切り換える。これによって、二次電池から装置本体に対する電力の供給が開始され、或いは停止されて、装置本体の電源のオン／オフ状態が切り替わる。

【選択図】 図3

特 2 0 0 0 - 3 4 7 0 9 4

認 定 ・ 付 加 情 報

特許出願の番号	特願 2 0 0 0 - 3 4 7 0 9 4
受付番号	5 0 0 0 1 4 7 0 2 6 2
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0 0 9 6
作成日	平成 1 2 年 1 1 月 1 5 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成12年11月14日
-------	-------------

次頁無

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 1 8 8 9]

1. 変更年月日	1 9 9 3 年 1 0 月 2 0 日
[変更理由]	住所変更
住 所	大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号
氏 名	三洋電機株式会社



Creation date: 06-23-2004
Indexing Officer: BBARIBOR - BARIDARA BARIBOR
Team: OIPEBackFileIndexing
Dossier: 09986575

Legal Date: 11-26-2003

No.	Doccode	Number of pages
1	IDS	3
2	FOR	25
3	NPL	1

Total number of pages: 29

Remarks:

Order of re-scan issued on